

令和4年8月1日

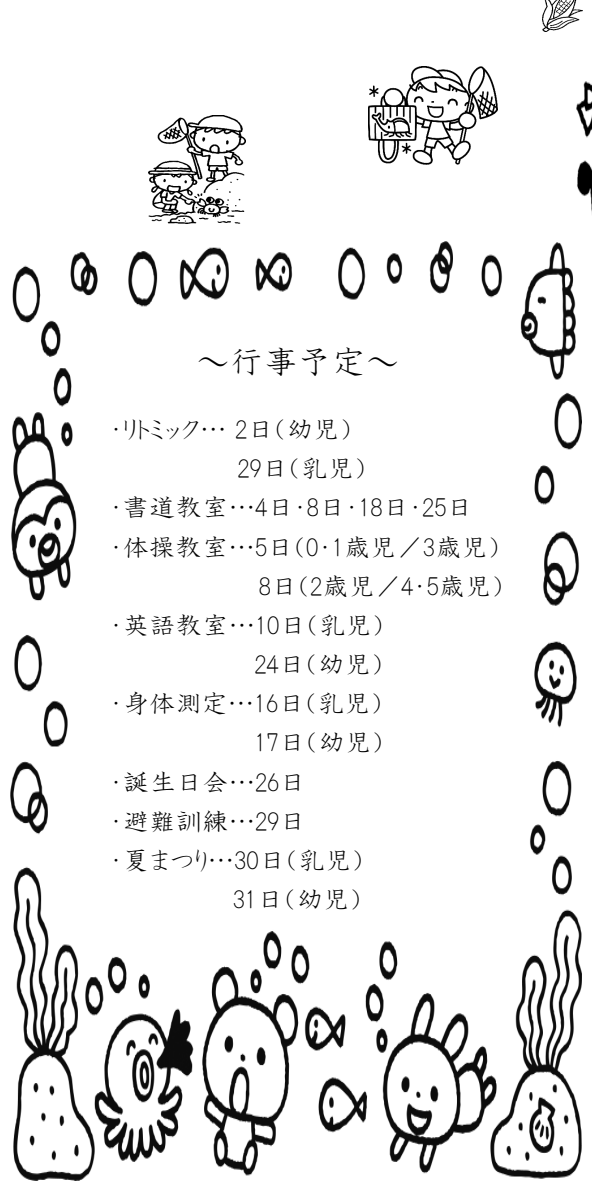
8月ちびっこの森通信 vol.63

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・水分補給や休息をしっかりととり、健康に過ごせるようにする。
- ・夏ならではの遊びをダイナミックに楽しむ。

～今月の園内学習～

- ・たし算…8の段
- ・かけ算…8の段
- ・絵画カード…「当時三美人」ほか
- ・声に出して読みたい日本語…くもの糸ほか
- ・歴史カード…「徳川家康」ほか
- ・国旗カード…ヨーロッパほか
- ・地理カード…中国地方ほか



♪ 今月の唄～♪

- ◇アイスクリーム
- ◆くじらのとけい
- ◇とんでったバナナ
- ◆アイアイ

～保育のポイント～

鈴木メソードという幼児教育で有名な鈴木鎮一先生の言葉「どの子も育つ、育て方ひとつ」とはバイリング習う時期を小中学生よりも早めることで習熟度が変わってきたことを実感されたことを示しています。換言すれば、(言葉、芸術や対人関係など)環境の影響が生涯の中で最も強く作用し、かつ、その作用の結果がその後、生涯にわたって維持されるような期間(感受性期、0歳～8歳くらいまで)があること表わしています。これは8歳頃まで狼に育てられたカマラが暗闇でも目が見え、舌で水をなめたりする狼のような行動をし、発見後に言葉など教育を受けたものの、その発達は極めて不完全なままだったという悲劇的な事例からも言えることです。ですから、この時期に母国語以外に英語などに親しむ環境により流暢なバイリンガルの可能性は増し、絶対音感や運動神経に絵ごころなどの感覚的センスも同様と言えます。幼児期の過ごし方の一考になれば幸いです。

暑い空にニョキニョキ、もくもくと浮かぶ雲が夏本番を感じさせる今日この頃。この時期は気温・湿度ともなぎ上りで不快指数たっぷりですが、こどもたちは意に介さず元気一杯なのが何よりです。朝の会では出欠呼では「ハ～イっ！」と元気な返事が返ってくるのが象徴的です。「りす組」は「きりん組」と一緒にお当番活動をしたり、「ひよこ組」は園内の探索活動がてら自由に歩き回る姿が見られます。このところ汗ばむことも多いことから適宜、沐浴や屋外のシャワーでリフレッシュし、よく食べ・よく遊び・よく寝るで健康に過ごしていきたいと思います。

2～3歳児だより

朝は蝉の大合唱が響き渡るようになり、いよいよ夏本番といったところですね。2歳児は、はじめてクッキングでエプロン姿よろしく、フルーチェゼリーのスイーツづくりに挑戦し、みんなで美味しいおやつを堪能することができました。水あそびは水恐怖症の子はいないようで喜々として水と戯れ、元気一杯です。一方、3歳児は目の前のニンジンではありませんが、大好きな水あそびの日にはその準備や後片付けもテキパキとこなしているのが何とも微笑ましい光景です。また、自分たちでやってみたいことの意味表示を自らがし、製作活動に積極的に取り組む姿が見られるのも確かです。今後も体調管理には留意し、元気に過ごしていきたいと思います。

4～5歳児だより

早い梅雨明けと共に、グッタリさせられるような高温多湿の酷暑の日々ですが、こどもたちは水あそびシーズン到来の位置づけから元気パワーに変わっているようです。そんな日は朝からテンション高く、準備も順調で水研究のように試験管かわりのカップに水を入れ、ジッと見つめたり、水鉄砲での水の掛け合いで盛り上がっています。最後は、何と云っても屋外シャワーで身体中 水まみれとなって盛り上がり、水あそびを満喫しています。そんな盛り上がり中でも、プランターで栽培中のイチゴやキュウリに「水、あげないとねえ～」と気にかける細やかさや心遣いができるようになってきたのも嬉しい成長と言えます。あと、園内では「夏まつり」に向けたお店屋ごっこがもう一つのこだわりで、各クラスが自ら企画立案し、準備を進めているところです。具体的には、現在進行中なのがコロケやチョコバナナ屋で使用する品やグッズづくりに余念がありません。その後は、みんなは売り子と買い手に分かれ、お店屋でのやり取りを再現していくことでこどもたちの中で「どんな言葉をかけようか？」といった想像性や社会性の育みにも繋がっていくことでしょうから、今月末の本番が楽しみな限りです。乞うご期待下さい。

給食室だより

ギンギン＆ギラギラの太陽の下、ぐったりするような高温多湿の真夏本番を迎えようとしています。最近、暑さ指数などで熱中症警報がなされ、こまめな水分補給の必要性が示されています。というのも、人間の体重の約6割は水分(血液や唾液などの消化液、細胞内の水分)で占められ、通常1日に優に2リットルが出ていくために1リットル以上の水分補給が必要とされることから代謝が繰り返される夏場は特に多めの補給が必要とされます。その機能は、身体の隅々に栄養素や酸素を運んだり、不要な老廃物を排出してくれたり、体温維持など身体を正常に維持機能する上で大変重要で必要不可欠と言えます。夏場に起きる脱水には「ふらつき」や「めまい」の軽いものから血圧低下、さらには意識低下といった重度の症状へ発展していきます。これらは(1.脳体 2.胃腸 3.筋肉など)体液の多い臓器の不調がそれらの症状を引き起こすと考えられることから、なおのこと水分補給はこまめにして体調の非常事態は回避していく必要があります。そこで、日頃の水分補給の基本は「喉が乾いたら一気に水分補給」と考えがちですが、これは尿として排出されるので効果は見込めません。水分は常温でこまめに摂ること、また食事を欠かさないこと、だそうです。体内の保水には食べ物の水分が有効とされているからです。たくさん汗をかいた時は、汁物で塩分などのミネラルを補給すると良いでしょう。今が旬のトマトやきゅうり、なすなどの夏野菜やスイカには体の体温を下げる働きもあり水分補給に最適です。適切な水分補給で暑い夏を乗り切りましょう。

